

「蔡侯盤」銘文の再現書体

デザイン学科 高城 光 TAKASHIRO Hikari



本研究の最終目的は列国金文書体、特に蔡国金文をモデルとした書体デザインと、そのプロセスの言語化である。

列国金文書体は、春秋戦国時代以降に中国大陸各地で多様化した金文書体の総称である。金文書体の一般的なサンプルは拓本として流布している。書体の特徴を書体として再現するためには、資料に表れた形の解釈と、特徴の編集・再構成が必要である。本研究では、この過程を可能な限り言語化し、書体の特徴と形態の関わりを明示することを試みている。

今回の発表では、昨年の発表に続き、蔡侯盤・蔡侯尊にあらわれた文字のトレースを元に、書体化に必要なパーツとディテールの整理を行った。



▲「蔡侯盤」銘文書体（92字種）

蔡侯盤・蔡侯尊は1955年、中国安徽省寿县蔡侯墓で発掘された。蔡は春秋時代にあった小国で、楚と呉の二つの強国に挟まれていた。蔡はこの二国間で存続するために、どちらに対しても決定的に対立せず、良好な関係を保つ戦略を尽くしていた。

蔡侯盤・蔡侯尊は蔡の大正（鮒鮒）が呉に持参した嫁入り道具である。銘文には呉王に敬意をもち睦まじく子を生ずという内容が書かれているが、同じ墓中に楚王への敬意が表された銅器も収められており、複雑な事情が想像できる。

蔡の書体の変遷にも揺れ動く蔡のありさまが見て取れる。右の図に蔡侯盤と別の時代の書体を比較している。楚や越の影響を受けた鳥蟲書である。殷の末裔である呉の文化は、鳥蟲書を育んだ南方の文化とは異なる。蔡侯盤・蔡侯尊のすっきりした書体には、蔡侯のもとから出された娘が古い文化を捨て、呉の文化を受け入れるというメッセージが込められている。

蔡侯盤・蔡侯尊には92種の文字がある。銘文にない字種を展開するための準備として、92字種を構成するパーツを整理した。漢字はパーツ（エレメント）の組み合わせで構成され、同じパーツを繰り返し使って複数の字種を展開できる。92種にくり返し現れるパーツを適切に整理すれば、パーツの配置と変形だけで銘文にない文字も効率的よく作ることができる。

整理の結果、33種の変形可能なパーツの組み合わせで92種の文字を完成できた（特殊なエレメントはその文字に合わせて1つずつ作っている）。

今後は、細部を整えながら他字種への展開を行い、他の時代の蔡国銘文に見られる鳥蟲書も作りたい。



2013年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。同大学グラフィックデザイン学科助手を経て、2018年より東京工芸大学芸術学部デザイン学科助手。大学在学中よりタイポグラフィ研究を始め、言葉を「読む」として「見る」とすることによる文字の伝達機能の総体について、金文書体、篆書体を題材に研究している。日本デザイン学会、芸術工学会、日本漢字学会会員。

Saiko-ban (platter belonging to a marquis of Càì): Inscription typeface recreation

Department of Design TAKASHIRO Hikari



The ultimate goal of this study is to design a typeface based on 'state bronze script', in particular the bronze script of the ancient state of Càì, as well as to verbalize the design process. State bronze script is a general term for the styles of bronze script that diversified through various parts of the Chinese mainland after the period of the Spring and Autumn Warring States. Typical samples of bronze script were circulated as stone rubbings. In order to reproduce the characteristics of the original shapes of the characters as part of a typeface, it is necessary to interpret the forms seen in the materials and to edit or reconstruct their features. In this study, I am attempting to verbalize this process as much as possible, and to clarify the relationship between the characteristics and shapes in the typeface. This publication, a continuation of last year's research, is based on tracings of characters that appeared on a wine vessel and platter belonging to a marquis of Càì. Tidying up of the parts and details necessary for their stylization has been conducted.



MA in Design major (Graphic Design), Tama Art University (2013).
 Assistant of Tama Art University Graphic Design Department (Apr 2013-Mar 2017).
 Assistant of Tokyo Polytechnic University Design Department (Apr 2018-Present).
 Study on typography. Analysis of non-verbal communication through typefaces and calligraphic style specializing in bronze inscriptions of ancient China.
 Member of Japan Society for the Science of Design (JSSD), Society for Design and Art Fusing with Science and Technology (SDAFST), and Japan Society for Cultural studies of Chinese Characters (JSCCC).



▲「蔡侯盤」銘文書体 (92字種)

蔡侯盤・蔡侯尊は1955年、中国安徽省寿縣蔡侯墓で発掘された。蔡は春秋時代にあった小国で、楚と呉の二つの強国に挟まれていた。蔡はこの二国の間で存続するために、どちらに対しても決定的に対立せず、良好な関係を保つ戦略を尽くしていた。

蔡侯盤・蔡侯尊は蔡の大正(姫駿)が呉に持参した嫁入り道具である。銘文には呉王に敬意をもち睦まじく子を生ずという内容が書かれているが、同じ墓中に楚王への敬意が表された銅器も収められており、複雑な事情が想像できる。

蔡の書体の変遷にも揺れ動く蔡のありさまが見て取れる。右の図に蔡侯盤と別の時代の書体を比較している。楚や越の影響を受けた鳥蟲書である。殷の末裔である呉の文化は、鳥蟲書を育んだ南方の文化とは異なる。蔡侯盤・蔡侯尊のすっきりした書体には、蔡侯のもとから出された娘が古い文化を捨て、呉の文化を受け入れるというメッセージが込められている。

蔡侯盤・蔡侯尊には92種の文字がある。銘文にない字種を展開するための準備として、92字種を構成するパーツを整理した。漢字はパーツ(エレメント)の組み合わせで構成され、同じパーツを繰り返し使って複数の字種を展開できる。92種にくり返し現れるパーツを適切に整理すれば、パーツの配置と変形だけで銘文にない文字も効率的よく作ることができる。

整理の結果、33種の変形可能なパーツの組み合わせで92種の文字を完成できた(特殊なエレメントはその文字に合わせて1つずつ作っている)。

今後は、細部を整えながら他字種への展開を行い、他の時代の蔡国銘文に見られる鳥蟲書も作りたい。



▶時代によつて異なる書体の比較

▶蔡侯盤「拓本」

▶変形可能なパーツ(二部)